

【自己評価結果】

実施予定年度	R 5 年度 ~ R 16 年度				〔新築〕	
事業名	甲東瓦木地区都市基盤整備事業			実施箇所	西宮市 上之町外	
担当部署	局	都市局	部・室	都市総括室	課	市街地整備課
総合計画	政 策		住環境・自然環境		良好な市街地の形成	

事業の目的・内容	事業目的	〈事業実施の背景となる問題・ニーズ〉					
		都市計画道路武庫川広田線と甲子園段上線は、地域の発生集中または通過する交通を集約し適正に処理できるよう、昭和21年に都市計画決定されていたものの、これまで事業化に至っておらず、道路ネットワークが脆弱かつ狭小な状況が続いている当該地域において、阪急武庫川新駅設置事業について進展があったことを契機として、地域内交通を処理するための補助幹線道路として整備を進めることで、住環境や通行安全性の向上を図るとともに、新駅への自転車・歩行者の安全な駅へアクセス動線の確保を目指すものである。					
		〈対象〉					
		地域住民及び阪急武庫川新駅の利用者等					
	〈成果(対象をどのような状態にしたいか)〉						
	地域内を歩行者及び自転車が安全で快適に通行できるようになることや、阪急武庫川新駅への安全なアクセス動線が確保される。 なお、甲子園段上線の今回整備区間南端から武庫川新駅までの間は、市道瓦第324号線や瓦第336号線など現況道路を利用することで、アクセス動線の確保が可能と考えている。						
	指標名（代表的なもの）		最終目標値設定の考え方・根拠	目標年度	単位	現在値	最終目標値
	上之町交番から日野神社までの車両の走行時間		広幅員の道路整備により、走行性が向上することで、走行時間が短縮できる	秒	60	60	48
	上之町交番から日野神社までの歩行者と自転車の移動快適性		歩道の設置や、広幅員の道路整備により、歩行者と自転車が地域内を快適に移動できるようになる	台・人	789	789	2,191
	計画概要	都市計画道路 武庫川広田線 ○延長L=200m ○幅員W=15m ○用地買収A=約1,700㎡ ○物件補償N=約15件					
都市計画道路 甲子園段上線 ○延長L=300m ○幅員W=12m ○用地買収A=約2,400㎡ ○物件補償N=約24件							
スケジュール	年月または年度	取組内容					
	令和5年度以前	武庫川広田線：現地測量、道路予備設計					
	令和6年度	武庫川広田線：事業認可申請、用地測量					
	令和7年度	武庫川広田線：物件調査、用地交渉 甲子園段上線：現地測量、道路予備設計					
	令和8年度	武庫川広田線：用地交渉 甲子園段上線：事業認可申請、用地測量					
	令和9年度	武庫川広田線：用地交渉 甲子園段上線：物件調査、用地交渉					
	令和10年度以降	武庫川広田線：用地交渉、道路整備 甲子園段上線：用地交渉、道路整備					

事業計画	予定事業費	4,297,930 千円	左記の内 国県支出(千円)	1,778,820	起債＋一般財源(千円)	2,306,620
	事業による経済効果等	費用便益比(B/C)= 1.09 【国の指定算出方法に準拠】(算出が困難な場合は、期待される効果のみを記述) 当該路線を含む武庫川広田線及び甲子園段上線は、全線開通することで広域的な幹線道路としての効果を発揮するが、鉄道との立体交差など整備するには課題が多く、今回は部分的な事業であるため数値的な効果を示すことが困難であるが、都市基盤が脆弱な地域において、地域内幹線道路として整備することで、歩行者や自転車が安全に通行できるようになるほか阪急武庫川新駅へのアクセス動線が確保できる。 また無電柱化することで、災害時による電柱の倒壊の恐れがなくなり、防災性の向上が図られる。				

懸案事項等	事業を実施しない場合の懸案事項等				
	・地域内の都市基盤が脆弱な状況が続き、地域内の発生集中または通過する交通を適正に処理できない。 ・歩行者及び自転車の通行の安全性の向上が図れない。 ・歩行者や自転車が、阪急武庫川新駅を利用するための、安全で安心なアクセス動線の確保ができない。 ・緊急車両の進入が困難な状況が続く。				
懸案事項等	事業を実施した場合の懸案事項等				
	・阪急武庫川新駅方面への交通量や、一定の通過交通が増加する可能性がある。 ・通過交通の増加により、現状の4m道路より騒音や振動の影響が大きくなる。 ・用地買収や建物補償が多いため、交渉が難航し、事業完了までに相当な時間を要する可能性がある。				

【委員会意見】

必要性	都市計画道路全体の整備には時間や費用を要すると考えられる中で、都市基盤が脆弱な当該地域において、新駅の設置計画を契機として当該都市計画道路を整備することは理解できる。
合理性	特になし。
規模適正性	特になし。
環境適合性	武庫川広田線について緑化の推進が図られる。
機能性	費用便益計算にも示されているように延焼抑制の効果も期待できる。

事業名	甲東瓦木地区都市基盤整備事業
-----	----------------

【 委員会評価結果 】

〔 1:計画どおりの実施が望ましい 2:計画の一部見直しが望ましい 3:計画の大幅見直しが望ましい 4:実施の見送り、中止が妥当である 〕

評価委員会 の総合判断	1	計画どおりの実施が望ましい
	評価委員会の総合的な意見	
	狭小幅員の道路が多いなど都市基盤が脆弱な地域において、新駅の整備に合わせて部分的にでも都市計画道路の整備を推進されることについては、理解できる。これを契機に当該地区の更なる都市基盤整備を進めていただきたい。	